

講義名	生活構造論			授業形態	
担当教員	森脇 丈子	開講期・曜日・時間	前期 火曜日 5 時間		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生

主題と概要

私たちの生活は経済と深く結びついています。私たちの生活に大きく影響する事象(出来事)はどのようにして引き起こされるのか、企業と政府と家計はどのようなかかわりを持っているのか、生活環境や雇用条件はどのようにつくりだされ、変化してきているのかについて、学んでいきます。社会の変化が激しい時代に生きる私たちにとって、経済的事象を理解するためにはスピードが求められます。しかし、その前にしっかりとした基礎知識の獲得やデータの読み方などの訓練も必要です。それらの方を身につけながら、働き方を含む日本社会の現状と問題点、消費の仕方、各人が社会の構成員の一人としての環境に対する態度、他者との関係の築き方はどうあるべきかなどについて、学び考えていきます。

新聞記事・動画などを適宜用いながら講義をおこないます。授業では、受講生との質疑や議論をおこないます。

到達目標

1. 私たちの生活と経済活動との結びつきについて理解できるようになる。
2. 家族構成や就業構造や生活時間の変化について、また、それらの変化が現代社会にどういった影響をもたらしているのかについて理解できるようになる。
3. 働くことのかかわり、経済の仕組みや法の方あり方について学ぶことができる。
4. 働き方や雇用条件と生活との関係について学び、よりよい暮らしのために何が必要か、そのために私たちにできることは何かについて、自分の考えを持つことができるようになる。

提出課題

課題はありません。毎回の授業で、復習と予習を出します(提出の必要なし)。毎回の予習と復習に取り組み受講生は発言得点が高く、かつ、単位修得率も高い傾向にあります。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

授業開始時に、前回授業に関して出された質問や意見についてコメントをします。授業開始時に、前回の授業の復習問題を提示します。手を挙げて発言して、自人の発言点を積み上げていってください。

評価の基準

1. 『授業中の発言・態度』…点数=30点(1回の授業あたり2点×15回)
 2. 『定期試験』…点数:7.0点
- 評価は、上記の「1+2」の合計点で、評価をします。合計60点以上が、合格です。59点以下は、不合格です。

履修にあたっての注意・助言他

授業では、学生に質問を出し、発言を求めます。新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や企業活動などに関する情報を日々収集しておいてください。第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業中の約束事をしっかりと理解し、受講してください。教室での通常授業では、授業中の私語、教室への勝手な出入り、スマホ等電子機器の利用を禁止します。開講科目として、「経済学入門」「経済学入門」「消費経済論」「経済論」の受講を勧めます。正当な理由のある欠席については、欠席後10日以内に連絡をしてください。この期間を過ぎた申し出は受け付けません。授業中の私語や教室への勝手な出入り、スマホ等電子機器の利用を禁止します。授業態度の悪い人には、退室を求めることがあります。

教科書

・「使用しない」.					
-----------	--	--	--	--	--

参考図書

・なぜ共働きも専業主婦もいいのか。	中野円佳	PHP新書	988	9784569843124
・フィンランドの教育はなぜ世界一なのか。	岩竹美加子	新潮社	902	9784106108174
・雇用と働き方から見た現代貧困論。	佐賀一暎	学習の友社	2000	9784761707552

その他

- ・参考文献
 - ・三好龍子(2023)『Z世代のアメリカ』、NHK出版
 - ・山田昌弘・編著(2023)『『今どきの若者』のリアル』、PHP新書
 - ・藤崎麻里(2025)『なぜ今、労働組合なのか 働く場所を整えるために必要なこと』、朝日新書
 - ・松沢裕作(2018)『生きつらい閉社会 今文と競争の時代』、若菜ジュニア新書
 - ・山田昌弘(2021)『新形態格差社会』、朝日新聞出版
 - ・上野千鶴子(2021)『文の子はとう生きるか』、若菜ジュニア新書

その他の参考文献やドキュメンタリーは、授業のなかで適宜紹介します。

授業計画

- 1 生活経済の基礎・家計・家賃、収入・賃金
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 2 経済社会の3主体・企業、政府、家計
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 3 世界の変化・世帯構造、収入・支出
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 4 戦後の日本経済(1) 高度経済成長期まで
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 5 戦後の日本経済(2) 低成長期以降
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 6 経済成長と公害:産業公害、環境公害と企業
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 7 日本人の就業構造の変化(1) 戦後の経済と職種の変化
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 8 日本人の就業構造の変化(2) 『日本型雇用システム』の成否
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 9 日本人の就業構造の変化(3) 『新・日本の経営』
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 10 働き方(1) 労働時間、雇用形態
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 11 働き方(2) 働き方のルール、労働関連法、最低賃金
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 12 働き方(3) AI社会で生きる
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 13 教育・福祉国家との比較
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 14 教育・福祉国家との比較
毎回の授業の配布資料の読後、予習と復習を提示します。次回の授業までにそれぞれ2時間程度をかけて準備してください。
- 15 まとめと定期試験について

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="radio"/> ア:PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/> ウ:ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ:グループワーク
<input type="radio"/> オ:プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ:実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ:その他(A・L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会貢献・産学連携、インターンシップなどで現実社会との視点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業中に多くの質問を出します。受講者は、手を挙げて自分の意見を述べてください。発言は加点の対象です。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし。

備考

大学の提示にしがたい、感染予防に努めてください。第1回目の授業に必ず出席し、授業方法、成績評価方法について、しっかりと理解してください。授業ではメモをとって、理解を深めてください(スマホによるPPT等の撮影は禁止します)。出席簿をプリントし、前記記事を適宜配布します。就職活動等による欠席者は、受講の授業開始前に前日プリントを受け取ってください。正当な理由のある欠席については、欠席後10日以内に連絡をしてください。この期間を過ぎた申し出は受け付けません。授業中の私語や教室への勝手な出入り、スマホ等電子機器の利用を禁止します。授業態度の悪い人には、退室を求めることがあります。